

第7回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 平成 27 年 2 月 23 日 15:00～17:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 開会

冒頭、海外特別委員 3 名(クリストフ・ベアール氏、ポール・ディックマン氏、ロザ・ヤング氏)から福島第一原発の廃炉の進捗ならびに NDF の活動について以下の通りコメントがあった。

- 前回参加時に比べ、非常に大きな変化が既にあると感じた。特に、「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2015」(以下「戦略プラン」という。)の中のアイデア、アクションといったものが明確になってきており、各関係機関のメンバーそれぞれがこの大きなプロジェクトに対して、ベストを尽くそうというその意思を非常に強く感じた。
- NDF をはじめとする各関係機関がこの数か月間の戦略プランの一連の真剣な議論の中で、プロジェクト管理の観点で、コスト効果の高い合理的なやり方も含め、どうやっていくのかという検討がしっかりなされていることがよくわかった。
- 極めて課題の多いプロジェクトだが、前進が見られた。この戦略プランがより包括的な、リスクベースのアプローチをとっているということに大変勇気づけられた。

2. 「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2015」について

NDF 事務局より、戦略プランについて以下の説明があった。

- これまでの廃炉等技術委員会でご議論いただいた内容を踏まえ、戦略プランの策定を進めている。今回は、完成に向けて、残された主要論点についてご意見を伺いたい。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 得られた情報の不確定な幅が大きな状況で工法を一つに決めて進むことが計画としてリスクが大きいことは周知のとおりであるので、その不確定な幅を狭めていくような、ロボットによる調査・サンプル分析といった内部調査の進捗・加速を望む。
- 選択し得る工法についてある程度数を絞らないと検討の進捗がよくないので、技術的に絞ることは必要であり、また方法の多少の変更は情報の追加によって必ず起こり得ることを考慮すべきと考える。
- 社会的・技術的制約がある中で、最終的にはパッシブセーフティな状態にもっていくべく、まずは現状の廃棄物の分類と保管場所の問題の議論を適切に実施し、現状の課題と対策について技術的に説明し広く理解を求める活動を行っていくことが必要である。事例として海外施設での事象とその対処の考え方を集めることが必要である。
- 現状まず対策を実施すべき項目を、リスクを基に優先順位付けすることが大事であり、今後は時間軸を含めた際に、時間の経過とともにどのようにリスクが変化していくかの評価も実施していくべき。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- これからも内部調査が進められていくようだが、その情報とシビアアクシデントに関する解析コードと併せて内部状態の予測を着実に進められるよう望む。原子力分野だけでなく、幅広い経験や専門知識を持つ専門家とも議論を持つことが有益であると考えられる。
- 包括的な規制を整備するのは時間がかかるため、特定の局所的な規制という提案も視野に入れることでプロジェクトの円滑な進捗を期待できると考える。例えばサンプル輸送容器等は既に海外にあるものを使用し、特例的な規制の下で実施することが望ましい。
- 経験として、廃棄物の規制については大変な時間を要する。数十年前に処理をした廃棄物の処分についての規制を最近整備した例もあるので、考え方等をぜひ学んでいただきたい。

3. 国が支援する研究開発プロジェクトの次期計画について

NDF事務局より、国が支援する研究開発プロジェクトの次年度以降の計画について、今年度の評価にNDFが加わったこと、また各関係機関の評価を基に作成された今後の研究開発計画について説明があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 廃炉について原子力界だけでなく、社会の中に一緒に考えてくれる仲間を増やすことが必要であり、社会科学的な研究についても重要なテーマであると認識すべきと考えられる。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- これまで戦略等記載の文書に廃棄物の「再利用」という言葉はあまり見られてこなかったが、極めて正しいことであると思っている。海外では、リパーパス(新たな目的)という言葉に記載している例もある。

4. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より、福島第一原子力発電所の最新の状況と人身災害について報告があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 東京電力社内に限らず元請会社も含めて、現場の問題を適切に共有し、一つ一つの事故の反省に基づく対策が風化しないよう取り組みを継続すること。

5. その他議題

NDF事務局より、以下の事項等について説明があった。

- 海外特別委員からのコメントへの対応
- NDF 廃炉支援部門の最近の活動

○今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

○IAEA 調査団(レビューミッション)の来日

以 上